様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2017
課題番号：１６Ｋ１３３１３

研究課題名（和文）医療と健康の分配的正義

研究課題名（英文）Distributive justice of medical and health

研究代表者
宇佐美　誠（Usami, Makoto）

京都大学・地球環境学堂・教授

研究者番号：８０２３２８０９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究計画は、健康がもつ諸特徴を踏まえた上で、医療サーヴィスの分配における患者の責任の考慮に関して新たなモデルを構築するとともに、健康の増進・回復策全般の分配について頑健な分配理念の理論を提案することを目的としている。研究活動を推進した結果、医療分配で個人責任を考慮したモデルと健康の増進・回復策の分配理念のいずれについても、新たな理論を構築すると同時に、関連する諸論点につき考察を深化させることができた。
成果物としては、本研究課題および関連の諸主題に関して、多数の英語・邦語の論文を公刊するとともに、国内外の会議にて招待講演・研究報告を行った。

研究成果の概要（英文）：Based on the characteristics of health, this research plan is to construct a new model regarding consideration of patient's responsibility in distribution of medical services, and to establish a robust distribution philosophy concerning distribution of overall health promotion and recovery measures It aims to propose theory. As a result of promoting research activities, it will be possible to deepen the consideration of related issues on both the model considering personal responsibility in medical distribution and the division philosophy of promotion and recovery of health did it.
As an outcome, we published numerous English-Japanese papers on this research topic and related topics, and invited lectures and research reports at domestic and international conferences.

研究分野：法哲学・法理学

キーワード：法哲学　法理学　運平等主義　質調整生存年　分配理念

１．研究開始当初の背景

(1) 医療サーヴィスの分配的正義論においては、運平等主義が近年強力に唱えられ広範な支持を得てきた一方、いわゆる過酷性批判等が出され、さらに批判に対する種々の応答も試みられてきた。これらの学説はいずれも選択と状況を截然と区分しうると想定している。しかし、健康状態は選択と状況の重層構造により規定されるから、その構造を踏まえた新たな形態の運平等主義が求められる。

(2) 健康の増進・回復策の分配的正義に関しては、質調整生存年を最大化する方式が医療経済学で知られており、海外にはこの方式の採用例も見られるが、最大化に伴う倫理的諸問題が指摘されている。こうした諸問題を検討する際には、功利主義の当否をめぐる研究蓄積が有用だと考えられるにもかかわらず、この蓄積を活用した検討は極めて乏しい。また、平等・優先性・十分性という分配理念を質調整生存年の分配に適用する議論も近時現れているが、健康の一部分がもつ基層性や医療への潜在的アクセスの枢要性を考慮した分配理念の分析は、ほぼ皆無である。

２．研究の目的

(1) 上記１．(1)で述べた研究開始時の研究状況を踏まえつつ、医療サーヴィスの分配的正義において選択と状況の重層構造を考慮した新たな運平等主義を構築することが、本研究の第一の目的である。

(2) １．(2)の研究状況に対応して、健康の増進・回復策の分配的正義につき、功利主義に関する知見も活用しつつ質調整生存年の最大化方式を検討するとともに、健康の諸特徴および医療アクセスの重要性を考慮した頑健な分配理念論を提案することを、本研究の第二の目的とする。

３．研究の方法

(1) 本研究では、法哲学を基軸としつつ、政治哲学・倫理学の観点も導入する学際的アプローチを採用した。

(2) 上記２．(1)・(2)のように要約される二つの目的を効果的に達成するため、海外共同研究者・広瀬巌（マッギル大学）の参加も得つつ、医療正義班と健康正義班を設けた。その上で、全体会合の開催を通じて、班間の有機的連携や全体的統合を維持するよう努めた。

(3) 研究期間の 2 ヶ年度を、基礎作業段階（平成 28 年度前半）、構築・展開段階（平成 28 年度後半・平成 29 年度前半）、統合・完成段階（平成 29 年度後半）に分けて、計画的に研究活動を推進した。

４．研究成果

(1) 上記３．に記した方法に基づき研究活動を推進した結果、２．で述べた目的に関する主要な研究成果として、以下のものが得られた。

(2) 医療サーヴィスの分配的正義に関して、選択と状況の漸次的重層化プロセスを分析し、それを踏まえた新形態の運平等主義を構成した。

(3) 健康の増進・回復策の分配的正義に関して、功利主義研究の先端的知見を活用した質調整生存年の最大化方式の精査と、健康の部分的基層性を考慮するとともに健康度と医療アクセス度を結合させた分配理念論の構築とを行った。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）

1. 宇佐美　誠,社会保障と財政をめぐる世代間正義,土地総合研究,26 巻 1 号,2018,160-169,オープンアクセスとしている

2.田中美穂,児玉聡、スイスへの渡航自殺幇助がもたらす影響--英国を中心に,医療事故・紛争対応研究会誌,査読有,11 号,2018,6-13

3.野崎　亜紀子,〈個人の尊重〉と〈他者の承認〉－新型出生前検査から考える,同志社アメリカ研究,53,2017,191-208
4.Satoshi Kodama (26 名中 20 番目の著者),Key Challenges in Bringing CRISPR-mediated Somatic Cell Therapy Into the Clinic, Genome Medicine,査読有,9,2017,85,DOI:10.1186/s13073-017-0475-4,国際共著該当
5.Akira Inoue, Kazumi Shimizu, Daisuke Udagawa, and Yoshiki Wakamatsu, How Broad Is the Scope of Sunstein's and Thaler's Theory?, Australian Journal of Legal Philosophy,査読有,Vol.41,2017,1-14
6.井上　彰,政治哲学における思考実験とその擁護,ニュクス,第 4 号,2017,220-235
7.井上　彰,運の平等論をめぐる攻防：ＶＳ社会関係に基づく平等論の地平,社会と倫理,第 32 号,2017,31-43,オープンアクセスとしている
8.野崎　亜紀子,医事法学を考える：法哲学の視角から,京薬論集,21/22 合併号,2016,17-36
9.田中美穂・児玉聡,川崎協同病院事件判決・決定に関する評釈の論点整理,生命倫理,査読有,Vol. 26,2016,107-114,
10.Hiroaki ITAI, Akira INOUE ,Satoshi KODAMA, 'Rethinking Nudge: Libertarian Paternalism and Classical Utilitarianism', The Tocqueville Review/La Revue Tocqueville,査読有,Vol. 37(1),2016,81-98,謝辞の記載有
11.Akira Inoue, Can Luck Egalitarianism Serve as a Basis for Distributive Justice? A Critique of Kok-Chor Tan’s Institutional Luck Egalitarianism,Law and Philosophy, 査読有,Volume 35, Issue 4,2016,391-414, 謝辞記載有,DOI：10.1007/s10982-016-9261-5

〔学会発表〕（計 20 件）

1.MakotoUsami,"Generationengerechtig-keit Sozialversicherung und Finanzen," paper presented at Symposium über Alternde Gesellschaft und die Antworten des Rechts, Waseda University, Tokyo, July 7, 2017
2.Makoto Usami, Prioritarianismand Levelling Down,9th European Congress of Analytic Philosophy (ECAP9)（国際学会）,2017
3.宇佐美　誠,医療資源の分配をめぐる　3 つの哲学的論点,国際高等研究所「領域横断型の生命倫理プラットフォームの形成に向けて」2016 年度第 2 回研究会,国際高等研究所,2017 年 1 月 29 日
4.宇佐美　誠,社会保障と財政をめぐる世代間正義,国際シンポジウム「高齢化社会に対する法の応答」（招待講演）（国際学会）,2017
5.野崎　亜紀子,生命医学研究におけるプロフェッショナリズム・ガバナンス・法,日本法哲学会 2017 年度学術大会,2017
6.田中美穂,児玉聡,世界の安楽死の動向と日本への影響,日本生命倫理学会,2017
7.児玉　聡,スペンサーの進化論的倫理学の再検討,イギリス哲学会,2018
8.児玉　聡,進化倫理学の検討――ミルとスペンサー,京都哲学会,2017
9.児玉　聡,インフォームド・コンセントや真実告知に伴う倫理的問題,第 3 回患者家族メンタル支援学会（招待講演）,2017
10.児玉　聡,臨床利用の是非に関する論点整理,上智大学生命倫理研究所主催公開シンポジウム「ヒト受精卵のゲノム編集」（招待講演）,2017
11.Akira Inoue, Egalitarian Justice and the Conditions of Restricting Immigration: A Defense of Left-Libertarianism, The 14th Japan-Korea International Joint Conference for the

Study of Political Thought: Justice Reconsidered.（招待講演）（国際学会）,2017
12.井上彰・善教将大・坂本治也,Making the Veil of Ignorance Work: Evidence from Survey Experiments,日本政治学会 2017 年度研究大会,2017
13.井上　彰,医療資源の配分と運の平等論,国際高等研究所　研究プロジェクト「領域横断型の生命倫理プラットフォームの形成に向けて」,2017 年 1 月 29 日,国際高等研究所（京都府木津川市）,招待講演
14.宇佐美　誠,現代社会における正義,司法研修所知的基盤研究会,2016 年 10 月 26 日,司法研修所（埼玉県和光市）,招待講演
15.Makoto Usami, Moral Grounds for Human Rights:A Dualist Approach, 53rd Societas Ethica Annual Conference “Ethics and Law”,2016 年 8 月 19 日, Evangelische Akademie Bad Boll (Bad Ball, Germany),国際学会
16.Makoto Usami, Distributive Goals and Measures in Global Justice, Workshop on Philosophy and Poverty,2016 年 5 月 13 日 ,University of Salzburg (Salzburg, Austria), Evangelische Akademie Bad Boll (Bad Ball, Germany), 国際学会
17.児玉　聡,ヒト胚へのゲノム編集技術：臨床利用の是非,生命倫理学会公募ワークショップ,2016 年 12 月 4 日,大阪大学（大阪府吹田市）,招待講演
18.Satoshi Kodama,A Short Report of the End-of-life, Bristol-Kyoto Workshop on Ageing, Health & Ethics,2016 年 9 月 20 日 , University of Bristol（Bristol, United Kingdom）,招待講演
19.児玉　聡,医療経済評価結果の医療資源配分への応用に関する倫理的課題,医療薬学フォーラム 2016（第 24 回クリニカルファーマシーシンポジウム,2016 年 6 月 26 日,びわ湖ホール(滋賀県大津市),招待講演
20.井上　彰,運の平等論をめぐる攻防：VS 社会関係に基づく平等論の地平,日本倫理学会第67回大会,2016年10月1日,早稲田大学(東京都新宿区）,招待講演

〔図書〕（計 12 件）

1.児玉　聡,勁草書房,赤林朗・児玉聡編『入門・倫理学』,2018,312（13-25, 177-193)
2.児玉　聡,弘文堂,山中伸弥監修・京都大学 iPS 細胞研究所上廣倫理研究部門編『科学知と人文知の接点--iPS 細胞研究の倫理的課題を考える』,2017,368（255-270)
3.児玉　聡（若松良樹編）,ナカニシヤ出版,功利主義の逆襲,2017,272(23-34)
4.児玉　聡,勁草書房,入門・医療倫理 I 改訂版,2017,412(17-29, 289-309)
5.井上　彰,有斐閣,法哲学と法哲学の対話,2017,366（131-136)
6.井上　彰,岩波書店,正義・平等・責任：平等主義的正義論の新たなる展開,2017,256
7.井上　彰,ナカニシヤ出版,功利主義の逆襲,2017,272（57-84)
8.Makoto Usami, University of the Arctic, Philosophy of Law in the Arctic,2016,137(100-108)
9.宇佐美　誠,晃洋書房,法理論をめぐる現代的諸問題：法・道徳・文化の重層性,2016,318(114-125)
10.野崎　亜紀子,ぎょうせい,死体からの研究用組織提供について、遺族の意思と死者の意思ー特に死体損壊罪、死体解剖保存法を支える思考の基盤から考えるー,奥田純一郎・深尾立編著『ライフサイエンスと法政策　バイオバンクの展開　人間の尊厳と医科学研究』,2016,222-233
11.児玉　聡,岩波書店,哲学トレーニング 2,2016,203(150-158)
12.井上　彰,運の平等と個人の責任（図書所収論文）,宮本太郎・橘木俊詔（監修）後藤

玲子（編著）『正義』ミネルヴァ書房,2016,157-167,謝辞の記載有

６．研究組織
(1)研究代表者
宇佐美　誠(Usami Makoto)
京都大学・地球環境学堂・教授
研究番号: 80232809

(2)研究分担者
野崎　亜紀子(Nozaki Akiko)
京都薬科大学・薬学部・教授
研究番号:　50382370

児玉　聡(Kodama Satoshi)
京都大学・文学研究科・准教授
研究番号:　80372366

井上　彰(Inoue Akira)
東京大学・総合文化研究科・助教
研究番号: 80535097